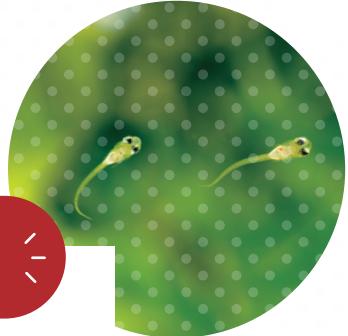
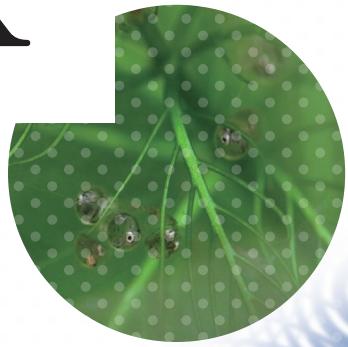




メダカ元気



メダカ育成 丸わかり BOOK



プロブリーダーによる
ワンポイントアドバイス付き！

WEBにも情報たっぷり！



ご存知ですか？

実は飼いやすいメダカのコト

メダカは環境への適応能力が高く、日照時間や水温などの条件を満たしていれば1年中産卵が見られるなど、初心者でも飼いやすい淡水魚です。

メダカ飼育の基礎知識を学んで、しっかりメダカを育てましょう！

オス・メスの見分け方

メダカのオス・メスの見分け方は、
背びれと尻びれの形がポイントです。

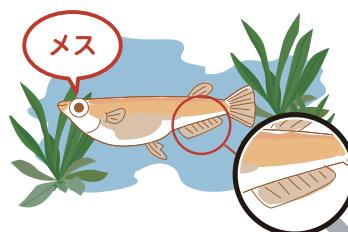


オス



背びれがギザギザしていて、
尻びれが平行四辺形になっています。

メス



背びれに丸みがあり、
尻びれが尾びれに向かって細くなっています。

メダカの寿命

自然界では1~1年半。
飼育下では2~3年。
メダカがもっとも美しくなるのは2年目と言われています。



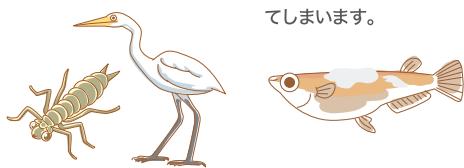
メダカの産卵

水温が23度を超える、日照時間が13時間くらいになると産卵を始めます。



メダカの天敵

メダカの天敵はヤゴで、
屋外飼育ではトンボが飼育容器に卵を産みに来ます。
また、カラスや、シラサギが狙うこともあります。



メダカがかからってしまう
代表的な病気は「白点病」「尾ぐされ病」「水力ビビ病」の3種類があり、水温・
水質が大きく変動すると病気にかかりやすくなってしまいます。

教えて！ブリーダーさん！

飼育中のメダカが
突然死んでしまった

原因①：寿命

突然死んでしまったように感じても、
実はもう寿命だったということは多いです。



ライフスタイルに
合わせて
選べる！

室内飼育と屋外飼育の違い

メダカはとても丈夫で飼いやすい魚なので、室内と屋外どちらでも飼育することができます。冬のメダカはあまり動きませんが、室内で水槽を保温することで、冬場でも産卵を楽しむことができます。



室内飼育



きれいな水槽に水草を植えて、美しく育ったメダカをお部屋で飼育しましょう。

天敵のヤゴなどに食べられてしまう心配もありませんし、水温を一定に保てば1年中繁殖を楽しんだり、観賞することができます。

**室内飼育について、
詳しくは3ページをチェック！**

屋外飼育



お庭やベランダなど、日の当たるところではメダカはとっても元気です。

屋外飼育では、外の新鮮な空気が水中に取り込まれるので、丈夫なメダカに育ちます。

※直射日光が当たらないように気をつけましょう。

**屋外飼育について、
詳しくは5ページをチェック！**



**室内と屋外、両方で楽しむ
飼育スタイルがオススメです！**



室内飼育を
楽しみたい方へ

室内飼育の基本！5つのポイントをご紹介

メダカをより健康に長く育てるためのポイントは5つ！水槽のセッティングの仕方やレイアウト例も交えてご紹介いたします。

**point
1**

水槽の置き場所

下記を満たす場所を選びましょう。

- 水平が保たれる安定した平面
- 直射日光が当たらない
- 水換えや掃除などのメンテナンスがしやすい



强度の低い
家具などの上



直射日光が
当たる場所



置やじゅうたんの上

**point
2**

水量と飼育匹数

例えば5Lの水槽なら、成魚は多くても5匹くらいまでにし、あらかじめ余裕をもった水量の水槽を選びましょう。



例



5L の場合

10L の場合	成魚 10 匹
20L の場合	成魚 20 匹

**point
3**

底砂の選び方

栄養系と言われるソイルがおすすめです。栄養系ソイルにはバクテリアも繁殖しやすく、水質の維持管理に適しています。

メダカは保護色で体色の濃淡を出しますので、濃い色のソイルがおすすめです。



オスメイ!
メダカ水景
メダカ育成ソイル
(詳しくは p.14 へ)

**point
4**

フィルターの選び方

様々な形のろ過フィルターがありますが、メダカの場合水流の強くないろ過フィルターがおすすめです。エアーの強さを調節できるフィルターを選べば、強い水流を避けながら、効率よく飼育水をきれいにしてくれます。



メダカ元気
メダカを育てる
フィルター
(詳しくは p.13 へ)

**point
5**

快適な水温を維持

室内飼育では水温の低下や変化により、季節によっては産卵が止まり病気の出やすい水温になってしまうことがあります。ヒーターを使用し設定温度23°C以上で管理するとメダカが過ごしやすい水温となります。



オスメイ!
メダカ元気
オートヒーター

教えて！ブリーダーさん！

飼育中のメダカが
突然死んでしまった

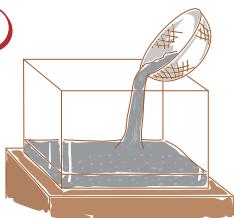
原因②：縄張り争い

実は数が少なすぎてもダメ。
適切な匹数を見極めましょう！



水槽のセッティングの仕方

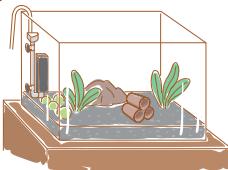
①



専用の水槽台など強度がある台に水槽を置き、砂利をよく洗ってから入れましょう。

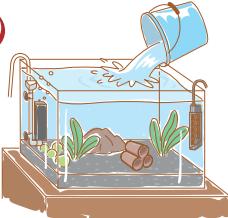
※土からできた底砂（ソイル）は洗わずには使います。

②



フィルター、ポンプなどの必要器具をセットしましょう。

③



カルキを抜いた水を水槽に入れ、快適に暮らせる水をつくりましょう。

レイアウト見本

産卵床

メスがお腹の卵をくっつける、繁殖に欠かせないグッズです。卵をカビから守る産卵床もあります。

フィルター

水槽の水をきれいにし、メダカにとって快適な環境を作ります。

エアーポンプ

水中の酸素の量はメダカの健康に大きく関係します。

エアーポンプで酸素を水中に取り込むようにしてください。

底砂

バクテリアの繁殖を促してくれるので、水質の維持や水草を植えるためにも必要です。

照明

明るい所で見ると飼育しているメダカが綺麗に見えます。産卵のためには1日14時間くらいの点灯が必要です。

ヒーター

寒い冬でもヒーターで水温を23℃くらいに保ってあげると、元気に育ち、繁殖も可能になります。

水草

水草は、メダカによって休む場所や隠れる場所や産卵の場所になります。メダカが活発に活動する日中、水草があると光合成によって酸素を供給してくれます。

教えて！ブリーダーさん！

買ったメダカがすぐに死んでしまう

原因： **水合わせの失敗**

お店の水槽と、新しい水槽の水質は異なります。水合わせは慎重に行いましょう！



屋外飼育を
楽しみたい方へ

屋外飼育の基本！3つのポイントをご紹介

屋外でメダカ飼育を楽しむために、押さえていただきたいポイント3点をご紹介！屋外飼育では気温の影響を受けやすいため、季節ごとの対策もご紹介します。

**point
1**

飼育容器の置き場所

下記を満たす場所を選びましょう。

- 日当たり・風通しが良い
- 水換えや掃除などのメンテナンスがしやすい
- 排水ができる
- 猫やカラスなどの天敵に狙われにくく
- ひさしがあり、雨水が入らない場所



**point
2**

飼育容器の選び方

室内飼育と同じく、匹数に合わせたサイズを選び、外気の影響を受けにくい断熱素材のものや、深型のものを使用してください。

水深が大きな容器は夏場における水温の上昇が緩やかになり、冬場の寒い時期は水温低下が緩やかになります。また、オーバーフロー穴がついているものなど、降雨などによる増水にも対応できるものをおすすめします。

オススメ！

- ・メダカのための飼育箱
- ・メダカのための飼育鉢
- ・快適繁殖ケース



**point
3**

底砂の選び方

フィルターが設置できない屋外では、扇や汚れを分解するバクテリア入りの底砂がおすすめです。



メダカ水景 ろ過する赤玉土
(詳しくはp.14へ)

飼育容器のセッティングの仕方

①



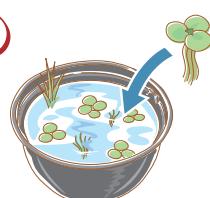
鉢をセットし底砂を敷く。

②



カルキを抜いた水を入れる。

③



水草、浮草などを入れる。

季節別のお世話カレンダー

3~4月



エサの食いが良くなり、繁殖行動を取りはじめます。お彼岸を目指して全交換をしましょう。桜が咲く頃、早いメダカは産卵を開始しますが、この時期の卵は無精卵である事が多いため、早くても4月下旬の採卵をおすすめします。

5月



本格的な繁殖シーズンです。しっかりと給食しましょう。よく食べる分飼育水の悪化も早くなります。食べる量が減ったり、食いつきが悪くなれば半分ほど水換えを行ってください。

水温が極端に上がるようであればスダレやよしづ等で日陰を作りましょう。



6月



稚魚が成長する時期です。エサを毎日あげて下さい。食べきれずに飼育水が汚れてしまった場合は水換えをしましょう。日当たりのよい場所で飼育することで、稚魚の成長を促進します。

親メダカは産卵シーズンの真っただ中ですので、変わらず体調管理に気を付けましょう。



7月



梅雨による水温の低下雨水の流入に注意してください。フタをしたり、特に稚魚は雨の当たらない場所へ避難させてください。梅雨明け後は、水温が上昇し水腐れや酸欠になりやすいです。飼育水の傷みを感じたら、即座に水換えをし、日中はスダレなどを使い水温が33°Cを越えないように気を付けてください。

8月



活発に泳ぎエサを沢山食べますので、しっかりと給食してください。また、大きい稚魚が小さな子を食べてしまう恐れがありますので、サイズごとの選別をしてあげましょう。

水草は葉を間引き、日照不足にならないよう注意してください。

9月



少し気温が落ちる季節。容器に対して稚魚の数を少なくするなど、冬越しのためにできる限り大きく育てましょう。最低1cmあると安心です。

台風時は、容器にフタをし、重石を乗せて備えをしましょう。稚魚の容器は一時的に避難させてあげるとより安心です。

10月



少し肌寒くなり、産卵も落ち着きます。暑さに慣れてから水温が下がると病気が出やすいので、油断せず観察してください。

エサが残る容器も出てきます。メダカの数などにあわせて量を調整しましょう。水換えも、エサの量に合わせゆっくりでいいです。

冬に備えよく太らせ、
冬越しの体力を蓄えましょう！



11~12月



飼育水は11月中旬頃に全交換し、清潔な状態で冬越しを。メダカがエサをねだったら、温かい時間帯に、軽めの量を与えてください。

冬は、そっとしてあげる期間なので、あまり網で掏ったりせずに、雪が降れば容器にフタをしてください。

寒い季節は乾燥しが蒸発しますので、同じ水温で足し水をしましょう。



1~2月



基本的にメダカはあまりエサを食べずじっとしていますが、メダカが水面を回遊したら少しエサをあげましょう。厚くなった氷は取り出し、減った分の水を足してあげてください。



メダカ飼育に重要な「エサ」について

メダカ飼育にとって一番重要なのはやはりエサです。成長のスピード、体型、体格までほとんどエサで決まります。またエサの食いつきでは体調変化、病気を見ることにより病気の有無も判断できますし、水質にまでも影響を与えます。

**point
1**

稚魚のうちからしっかりと給餌を行う

稚魚のエサやりのポイントは
P121でも解説しています！



生まれてから1か月程の給餌はとても大切です。しっかりとエサを食べて育っていると、1cm程のメダカになる頃には親メダカと同じ様な体型になっています。

お腹の膨らみ、尾筒の太さ、普通体型、ダルマ体型はこの時点で判断できますので、まずは小さい内から良く食べさせて、ふっくらしたメダカに育ててあげましょう。

**point
2**

体長が1cmを越えたら高たんぱくなエサを！

産卵・繁殖に向けたエサが重要になりますので、高たんぱくのエサを中心に与えていきます。産卵がスタートする頃の目安としては、1分程で食べられる量を与えます。1日2回～3回2時間は間隔をあけエサを食べさせるとぶくぶくとした体型になり、体表の粘膜もしっかりとした艶のある鱗になっていきます。

給餌後は
メダカのフンを確認！



- フンが太くて短い→消化が少し悪く栄養価が高いエサ
- 長く細い→消化は良いが栄養が少なめのエサ

極端にハイカロリーなエサを与えてしまうと、消化不良をおこして病気につながる恐れがあり、低カロリー過ぎると栄養が足りず産卵できなくなります。
必ず市販のメダカ専用のエサをあげるようにしましょう！

**point
3**

季節ごとにエサの量を調整する（屋外飼育の場合）



低カロリーなエサから与え、量も少しづつ多くしていきます。冬の間に弱くなった、食べて消化する機能を回復させてあげましょう。



メダカも夏バテをおこします。無理に産卵数を増やそうとエサの量を増やさないようにしましょう。病気や水質悪化の原因に繋がります。



冬に向かうにつれて気温・水温共に下がりますが、意外に水温もありますので、冬越しに備えてなるべくエサを食べさせるようにしてください。



メダカが水面を泳いだら、いつもの半分程度のエサを与えて下さい。冬越しの栄養不足を補うことで春の産卵が早めに始まります。

メダカのエサは浮上性がおすすめ！

メダカの口は上向きについていますので、水面のエサを食べるのが得意です。

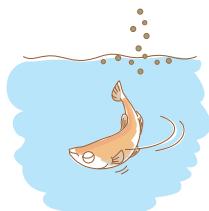
沈んでしまったエサは水質悪化の要素になりますので、食べ残しがある場合は取り除くようにしてください。



コレが出来れば
あなたもプロ！

見極めよう！水換えのタイミングとコツ

水換えの回数は、多すぎても少なすぎてもよくありません。メダカにとってよいタイミングを見極め、水質を保てるようにしていきましょう！



エサの食いつきで見極めよう！

メダカ飼育に慣れていない方は、まずは2週間に1回のペースで1/3程度の水換えを行ってください。

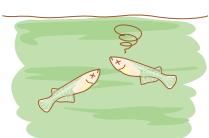
段々と慣れてきたら、エサをあげた時のエサの食いつきや食べる量の変化を観察し、水換えのタイミングを見計らいましょう。



キレイな水に見えていても病気が発生することもあるから、同じ環境・隣同士・同じ匹数の飼育で水換えを行っても、一部の水槽では水質がダメになってしまった…なんて事がよくあります。必ず1週毎に水換えと言うのも間違ってはいませんが、それぞれのタイミングを見つける事がメダカ飼育上達のポイントになります。

水の換えすぎには注意！

病気や水質悪化を防ぐために頻繁に水を換える方もいますが、換えすぎてしまうと、メダカにストレスを与えてしまったり、飼育者を怖がっててしまったりします。また粘膜が剥がれると、病気の原因になることもあるので、気を付けましょう。



稚魚の水換えについて

稚魚の水換えは、親魚よりも繊細な作業となります。躊躇される方も少なくないのでないでしょうか。

しかし、稚魚も親魚と同様、毎日の給餌による水質悪化のせいで弱ってしまったり、病気になる恐れがあります。それを防ぐためにも、是非稚魚の水換えをしてあげましょう。1mm目の網であればゆっくり掬い、ゆっくり同じ水温の水に戻せば問題ありません。稚魚の水換えに対応したケースを使えば安心です。

新鮮な水になると良くエサを食べ、成長も早まります。また水量を多めにしてよく日の当たる場所におくことで、さらに成長を促進させられます。孵化後～1cm程のサイズになるまでが一番心配な時期です。1匹でも多くの稚魚が大きく成長できるように環境を整えましょう。



育てるお守りケース
(詳しくはp.13へ)



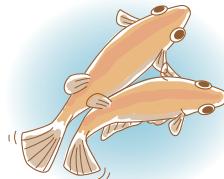
オススメ！



産卵と繁殖を成功させるポイント

メダカ飼育の醍醐味の一つといえば、「産卵・繁殖」を楽しめること。難しく感じる方もいるかもしれませんが、正しい知識をもち、適切な用品を使用すれば簡単に楽しむことができます。そんな産卵・繁殖のポイントをご紹介します！

まずはこの条件を保てるよう、環境づくりをしてあげましょう！



水温	20°C~26°C
日照時間	13時間以上
pH	中性
オスとメスの比率	オス 1 : メス 2



よくあるお困りごと

産んだ卵が孵らない

メダカが産卵し容器を移し替え、今か今かと孵化の時を待ちわびているのに、一向に卵が孵らない…そんな経験はありませんか？卵が孵らない原因は、水質や水温、日照時間なども影響しますが、主な要因としては、無精卵にカビが発生し、そのカビが有精卵にうつってしまうことです。

そんな時は、カビの広がりを防ぐ「卵のお守り産卵床」の使用をおすすめします！



卵のお守り産卵床



特殊繊維が、産み付けられた卵をカビや雑菌から守り、孵化率をアップさせます。やわらかい繊維なので卵が付きやすく、水に浮かぶ部分を指でつまめるので採卵時も手を濡らしません。親魚の品種や産卵日の管理がしやすい4色設定です。

色別なので
採卵日や品種を
区分けできる



沈めるタイプも!
上から落ちた
卵もしっかり
キヤツチ



「産卵・繁殖」4つのポイント

**point
1**

健康な親魚を育てる

丈夫な稚魚は丈夫な卵から生まれます。
親魚がしっかり産卵・繁殖できる健康な状態に育てる
ことが一番大切です。

成功ポイント

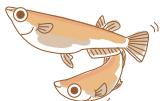
繁殖用フードを与えて、産卵に適した環境を整えましょう。



繁殖用フード

**point
2**

交尾



オスがメスに寄り添って泳ぎ、背びれと尻びれで
メスを抱きかかえるようにして行います。
交尾の時間は約30秒程度なので、観察の機会を逃さ
ないようにしましょう。

成功ポイント

親メダカ同士の相性が悪い時もメダカは産卵しなくなります。

オスがメスより極端に小さい、オスの求愛が強すぎてメスがエサを食べていない等も考えられます
ので、観察し対処していきましょう。

**point
3**

卵を産みつける



メスの下腹部に丸いものが複数くっついていれば、
それが卵です。産卵した卵はしばらくの間はメスの
お腹にくっついています。
メスがお腹の卵をくっつけやすいよう産卵床を事前に
用意しておきましょう。

成功ポイント

卵が底に落ちた場合はスポットで吸い出して別容器に移します。産卵シーズンでは、何度も卵を産むので、産卵床は繰り返し使えるものが便利です。



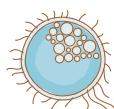
産卵床



卵、稚魚用
スポット

**point
4**

卵を守る



卵はカビが生えてしまったり、親魚が産んだ卵を食べてしまうことがあるので注意しましょう。

成功ポイント

卵は産卵床ごと別容器に移して孵化を待ちます。
雑菌やカビから卵を守るグッズもあります。



卵保護剤



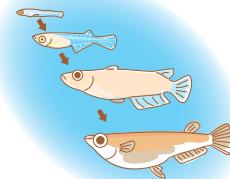
卵、稚魚用
容器

コレでもう失敗しない！

稚魚育成の秘訣

メダカの飼育で特にむずかしいと言われるのが稚魚の育成。

稚魚育成のコツを知り、しっかり成長させましょう！



メダカが孵化したら はじめにすべき 3 つのこと

01. メダカの稚魚を別容器に移す

成魚が稚魚を食べる恐れがあるため、孵化したらすぐ別容器に移すか、予め別の容器で孵化をさせましょう。容器に親魚水槽の飼育水を入れて下さい。稚魚用ケースでは1cm以上になるまで育てます。

水流が強いと稚魚は衰弱する恐れがあります。酸欠が気になるようであれば、水草を入れるとよいでしょう。



02. 日光の当たる場所に置く

水温を23~28°Cにキープし、光をしっかりと当てるとメダカの体内環境が整えられ、元気に育てることができます。変温動物なので水温が高いほうが順調に成長できます。室内ではLED照明と水温の下がる時期はヒーターを使用し、屋外では日陰に置くことは避けましょう。

※水温が上昇しすぎないように注意してください。



03. 3日目まではエサをあげない

メダカの稚魚は最初の3日ほどは、お腹の袋(ヨーカサック)の中の栄養だけで生きていけるのでエサをあげる必要はありません。ヨーカサックが無くなる3日目あたりからエサを与えましょう。



ブリーダー推薦

育てる栄養ウォーター



エサだけでは不足しがちなビタミン、ミネラルを強化配合。飼育水に添加するだけで毎日の栄養補給に。特に難しいと言われる孵化後の稚魚の成長をサポートします。

育てるお守りケース



ボックス上部がメッシュになっており、稚魚を移動させたり傷つけることなく水換えを行うことができます。稚魚の水換えが苦手な方も、水質をラクにキレイに保てます。

＼ もう稚魚育成で失敗しない！ ／

エサ不足と水換えの失敗を解決！

エサ不足に注意！ エサやりのポイント

エサを食べるのが下手な稚魚は、餓死してしまうことがあります。エサやりにもちょっとしたコツが必要です。

エサはパウダー状にして与える

小さい稚魚はサイズが大きいと食べられません。すりつぶして細かなパウダー状にして与えましょう。すりつぶすのが面倒であれば稚魚用のエサが便利です。

オススメ！

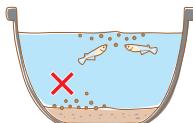


パウダーフード
(詳しくはp.14へ)

エサやりは1日4回程度が理想

稚魚が1回に食べられる量は少なく、沈んだエサも食べられないで、食べきれる量を4回程に分けてこまめに与えるのが望ましいです。

エサだけでは不足しがちなビタミンもあるので、「育てる栄養ウォーター」などで補ってあげましょう。



稚魚はもぐることが苦手なため、稚魚用のエサは簡単には水を吸って沈まないようになっています。稚魚達は少しづつ時間をかけてエサを食べますので、すぐには片づけないようにしましょう。エサが水を含み膨張してしまったら、片づけてOK！



稚魚の扱いは慎重に！ 水換えのポイント

稚魚の育成にとって、水換えはとても重要です。ただし、稚魚のときの水換えは事故やストレスが起こりやすく、注意が必要です。

稚魚にとって水換え時の水質変化よりも、水温変化の方がよりストレスになります。水温は必ず合わせましょう。プロのブリーダーは全水量を換えることがあります。1/3～1/2程度の水換えが安全です。稚魚は体が未熟なため、網で掬う時などは慎重に掬ってください。お玉やボウル等を使って水と一緒に移動しても良いです。無理をすると、体が曲がってしまったりします。

稚魚の水換えについてはP.8でも解説しています！



プロブリーダー
お墨付き!

メダカ専用商品 ラインナップ

プロブリーダーとジェックスラボラトリーで開発を行った「繁殖・育成グッズ」シリーズのご紹介です。卵の孵化から稚魚の育成、美しいメダカとの毎日を応援します。

室内でメダカを飼育する

メダカのための水槽セット 200キューブ, 300, 400

メダカの産卵・繁殖を楽しむメダカ専用飼育セット。
メダカにやさしい流量調節付きのフィルター付き。



親魚の食卵を防ぎ、稚魚の成長をサポートする

育てるお守りケース



ボックス上部がメッシュになっており、稚魚を移動させたり傷つけることなく水換えを行うことができます。
稚魚の水換えが苦手な方も、水質をラクにキレイに保てます。

やさしい水流で水をキレイに

メダカを育てるフィルター



やさしい水流をつくるメダカ飼育専用スponジフィルター。卵・稚魚を吸引しにくい高密度スponジ採用。
エアーレギュレーター付。

プロブリーダーも絶賛の屋外用飼育ケース

快適繁殖ケース



積み重ねOK
発泡素材

深型で水量たっぷり、底上げ構造で温度変化を防ぎます。省スペースにたくさん並べられるので多品種の育成が楽しめます。
オーバーフロー対策、エアレーションに便利な構造を採用。

メダカのための飼育箱



樹脂製で軽量
ラクラク排水構造

容器を傾けるだけで水抜きが行え、風通しの良い底上げ構造を採用した屋外飼育におすすめの飼育ケースです。3ヶ所の水抜け穴により、急な降雨時のオーバーフローを防ぎます。

メダカのための飼育鉢



樹脂なので軽くて丈夫な屋外用飼育鉢。
急な増水時でも安心の2ヶ所の水抜け穴付き。

メダカの選別、お手入れに

やさしいネット



メダカを選別しやすい黒色で、四角い容器だけでなく、丸い容器でも使いやすいネット。

ス皮ト



小さな容器のお掃除だけでなく、卵や稚魚の選別にもおすすめ。

メダカに適した水をつくる

育てる栄養ウォーター

エサだけでは不足しがちなビタミン、ミネラルを強化配合。飼育水に添加するだけで毎日の栄養補給に。特に難しいと言われる孵化後の稚魚の成長をサポートします。



バクテリアウォーター

屋外飼育のような低酸素下でもしっかり働く複数種の菌を配合。生きたバクテリアが汚れを分解。



はぐくむ水づくり

水道水中の有害な塩素と重金属を瞬間無害化。さらにキトサン(天然由来成分)がメダカの産卵・成長をサポート。



丈夫な親魚を育てる、稚魚を成長させる

プロバイオフード



繁殖と成長に特化し亜鉛などの栄養素を強化。3つの善玉菌の働きで水の汚れも抑制。

パウダーフード



消化吸収に優れたパウダーフード。針子など泳ぎ出しの稚魚にも最適。

いつでも食べられるフード



自然界のメダカのように、いつでも食べられるよう浮くフード。

卵をカビや雑菌から守る

卵のお守り産卵床



色別なので採卵日や品種を区別できる



沈めるタイプも!
上から落ちた卵もしっかりとキャッチ

卵をカビや雑菌から守る作用のある特殊繊維を採用。一般的な産卵床と比較して、孵化率が約2倍[※]。卵を産み付けやすい、やわらかい繊維が特徴。

[※] ジェックスラボラトリーアベ

卵・稚魚を守る水づくり



メダカの卵と稚魚を守る水質調整剤。キトサンの抗菌作用で孵化率がUP。天然由来成分なので、卵・稚魚にも安心。

メダカのための機能性底砂

ろ過する赤玉土



屋外飼育に最適なバクテリアを配合した、崩れにくい硬質タイプの赤玉土。生きたバクテリアがフン等の汚れを分解し、澄んだ水を維持します。

育成ソイル



フミン酸配合で、室内飼育のメダカの成長をサポート。メダカが引き立つ黒色タイプ。

天然ろ過ソイル



フンや残餌を分解する生きたバクテリア入りで、澄んだ水を維持。メダカが引き立つ黒色タイプ。

元気に育つ、たくさん増える。

メダカ元気



全国のプロブリーダーから
たくさんの品種が
生まれています！



500種類以上ともいわれる魅力的な改良メダカ。

プロブリーダーとジェックスラボラトリーから生まれた専用飼育用品と飼育情報で、
毎日のメダカとの暮らしをお楽しみください。

このやさしさを人と社会へ
ジェックス株式会社



メダカ元気

検索